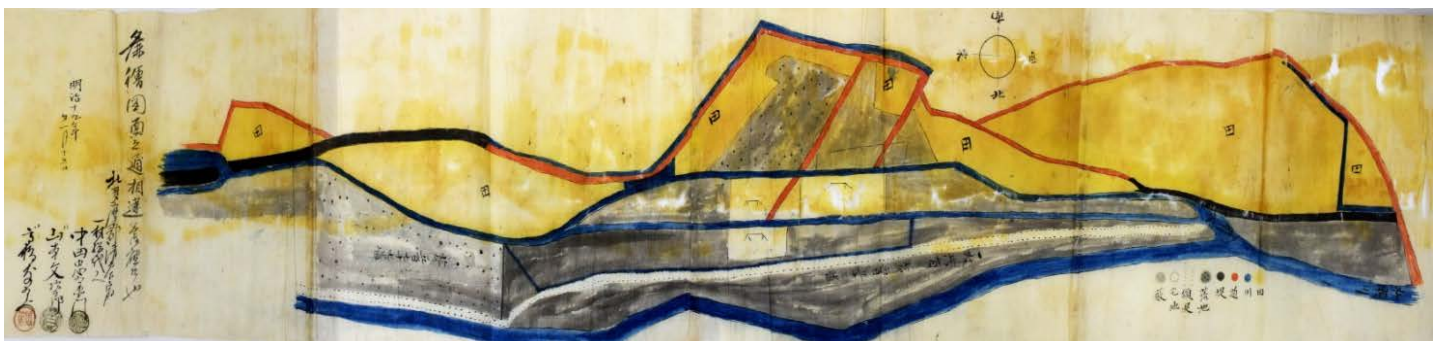


明治時代の清瀬一地域の歴史一

明治政府は、富国強兵（兵制・学制・税制改正）や殖産興業を掲げて、新しい国づくりを進めていきました。清瀬周辺は明治時代以降も引き続き大半が農村部であり、ほとんど当時を知る文書は残っていません。その中で、現在の残っている明治時代の文書の多くが、田畑の検地に伴う資料や地租改正時に作成した地図・地券になります。

明治6年（1873）に公布された地租改正条例は、それまでの物納から金納に変化し、測量した絵地図の作成や共通様式の地券（改正地券）が発行されるなど、税制改正の大きな目玉であり、当時の村々にとって大きな変革でした。

また、それ以外に多く残っている文書として柳瀬川の氾濫に関するものが存在しています。柳瀬川の氾濫は、江戸時代以降からしばしば清瀬を悩ます問題でした。明治11年（1878）9月11～15日の大雨によって清戸下宿付近の堤防が決壊し、田畑に土砂が入り甚大な被害が出ました。当時戸長であった高橋友右衛門は、被害状況を記した文書や図面を作成し、堤防の修繕を神奈川県に願い出ています。さらに、明治26年（1893）清瀬村は、度重なる洪水に備えて、新しい堤防の築造を検討し、一部を国費で賄ってもらうため、村議会は議決をおこなっています。

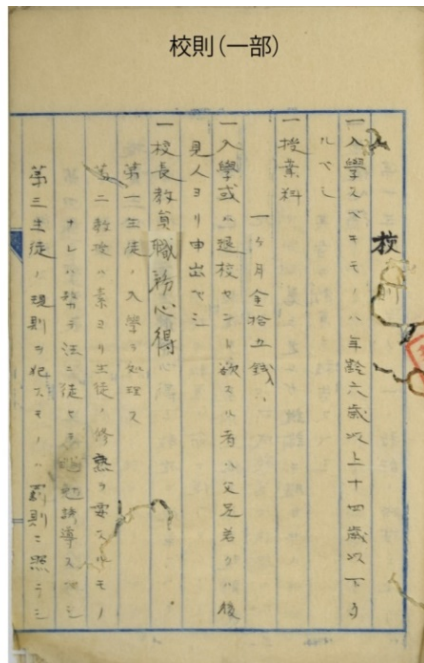
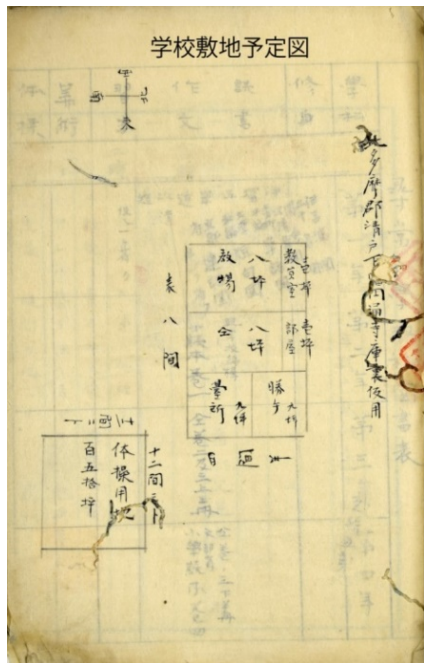


【柳瀬川堤通り耕地絵図】 明治19年（1886）1月15日

清瀬における学校の記録は、明治7年（1874）頃の資料に、清明学舎（清明小学校）と挺立学舎が記されています。挺立学舎の実態は不明ですが、清明小学校は、下清戸の長命寺の敷地に作られ、明治31年（1898）に村立昇進尋常小学校と名前を変え、清瀬小学校の場所に移り、

現在に至っています。

今の清明小学校は、平成14年に開校した学校になります。私立明教小学校は、明治20～30年に存在していた小学校で清戸下宿の円通寺の敷地に作られました。1クラス約30人で授業をしました。



[明教学校設置伺] 明治20年(1887)9月13日

年代	西暦	出来事	人口(人)	
明治	2	1869	品川県第19組に清瀬6村（上清戸・中清戸・下清戸・清戸下宿・中里・野塩）が編入される。	2,005
	4	1871	廃藩置県によって品川県廃止、翌年から清瀬6村は神奈川県 の管轄に移動。	—
	6	1873	第11区5番組に下清戸・清戸下宿、第11区6番組に上清戸・ 中清戸・中里・野塩がそれぞれ編成される。	—
	7	1874	この頃の資料に、清瀬市の学校として、清明学舎（清明小学 校）と挺立学舎が記載されている。 清瀬6村は、第11大区7小区に再編成される。	—
	11	1878	神奈川県北多摩郡の管轄内に入ることとなり、それぞれの村 名が復活する。 9月11～15日の大雨によって清戸下宿付近の堤防が決壊し、 田畑に土砂が入り甚大な被害がでた。	—
	22	1889	清瀬村が誕生し、現在の行政区画が誕生。最初の村役場は、 中清戸村に置かれ、初代村長として清戸下宿の高橋友右衛門 が就任。	2,392
	26	1893	清瀬村は、度重なる洪水に備えて、新しい堤防の築造を検討 し、一部を国費で賄ってもらうため、村議会は議決を行う。 東京府に編入。	—
	31	1898	下清戸の長命寺の敷地に作られた清明小学校が村立昇進尋常 小学校と名前を変えて、現在の場所で開校する。	—